

福岡市工業用水道事業の経緯

福岡市とアジアの交流の歴史は古く、昔から博多港は中国大陸や朝鮮半島との交易拠点として栄えてきた国内有数の港であり、福岡市の発展は港とともにありました。

福岡市では昭和36年の総合計画に基づき産業振興を支える臨海工場地帯の埋立造成を促進し、軽工業を主体とした産業誘致に努めていました。しかし、工業用水道がなく、地下水の確保も難しいことから、誘致企業への用水確保が急務となっていました。

そこで、昭和39年に福岡市、商工会議所、九州山口経済連合会、主要会社の参加による福岡市工業用水道整備促進協議会が発足し、本市産業の振興に寄与することを目的に工業用水道の計画が策定されました。その後、市議会の議決や国への工業用水道事業の届出を経て、昭和41年4月から12事業所に対し供給を開始しました。

工業用水道事業は、博多港周辺部の工場等が使用する冷却水や洗浄水などの需要に対し、安価で良質な工業用水を安定的に供給することにより、産業の振興に大きく貢献しており、令和7年度当初で30事業所に供給しています。

福岡市工業用水道事業の位置



福岡市工業用水道事業の供給先の概要

(令和7年4月1日現在)

供給用途	業 種	給水件数
工業用	製造業（窯業・土石製品製造等）	20
	地域熱供給業	3
工業用以外 （雑用水）	サービス業	5
	運輸通信業・公務	2
合 計		30